

平成28年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は本学が自主性、主体性を持ちながら、教育・研究の活動を行っている一方で、学外の第三者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、毎年各講座の活動に対して評価を行い、適切な講座運営が図れるよう取組みを進めております。

1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書および診療実績報告書（自己評価）をもとに、寄附者や外部有識者で構成される寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、寄附講座評価会議において決定したものです。

(1) 評価者

①寄附者（23団体）

②寄附講座アドバイザー（6名）

福島県立総合衛生学院 院長 藤田禎三 氏

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 鈴木清昭 氏

公立藤田総合病院 院長 堀川哲男 氏

福島県住宅生活協同組合 理事長 和合アヤ子 氏

福島県中小企業団体中央会 副会長兼専務理事 熊本俊博 氏

③学内評価者（4名）

医療研究推進戦略本部 本部長、副本部長

医療研究推進センター センター長、医療産業連携部門長

(2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている・・・（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

2 評価結果

評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績について評価できる、適切であるとの評価をいただきました。その他、特に論文数の少ない講座においては積極的に論文化に取り組むよう助言がありましたことから、各講座へのフィードバックにあたり周知いたしました。

講座名	研究・診療	評価	主な意見
周産期・小児地域医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、基幹病院の役割の重要性を再認識した ・診療支援を目的としており研究内容は適切である ・今後の計画も、当地方の地域医療を充実させるためには必要不可欠であり、さらなる成果を期待するとともに、継続した研究を望む ・地域内の診療体制が維持できるよういっそうの研究活動を期待 ・成果の論文化が望まれる
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療を充実させるために大きく貢献している ・専門外来の充実がみられている ・産科、小児科とも常勤医師の増員を計画していることは好ましい ・将来は常勤医師で診療できる体制を構築してほしい(特に一般外来)
地域救急医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練においても救急医療技術の向上に大きく貢献している ・救急医療の第一線医師を着実に育成している ・成果が適切に論文化されている ・引き続き地域内での救急医療体制の向上に貢献されるよう期待
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市内の病院に対する救急支援当直により、救急医療体制の向上に貢献している ・概ね適切であるが、救急臨床データの継続した分析が望まれる ・活発な学会活動である ・研修医、さらには中学生に対するプロジェクトは長期的な医師確保にも寄与する活動である
地域産婦人科支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果はもとより、当地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献している点においても、高く評価できる ・一般に対する啓発に積極的に取り組んでいる ・いわき市の産婦人科医療を支えている点、また若者への教育活動はすばらしい ・成果の論文化が望まれる ・今後専門医の教育の拠点としても活動していただきたい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域における産科医療施設が減少している中で、当院が最後の砦となっており、当地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献していることから、高く評価できる ・症例数の増加もみられ、継続した活動が望まれる ・高校生へのキャンペーンは特筆できる ・婦人科のみならず産科についても多くの実績をあげている ・臨床報告データと論文が望まれる
白河総合診療アカデミー	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した健康増進プロジェクト、減塩プロジェクトなどが着実に進行している ・臨床研究指導から国際共同研究まで活発な活動を展開している ・診療、教育、研究すべてで大変すばらしい成果をあげている ・センター内における定期的な研究報告が必要かもしれない ・様々な活動は研修医確保にも少なからず貢献するものと期待 ・さらなる論文化を求めたい

白河総合診療 アカデミー	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・診療能力が高いことに加えて、受容性が高く、内科系の中心的存在になりつつある ・高齢者医療、および初期臨床研究医、医学生に対する教育も使命としており高く評価される ・診療面では診療範囲の拡大、患者増、救急診療の改善など大きな成果をあげている ・診療能力の高い医師が育成されている ・教育活動で成果をあげた結果として診療がさらに充実している ・総合診療医の育成でも大きな成果を上げつつあると思われる
東白川整形外科 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に診療水準を向上させている ・地域住民も高齢化、骨粗鬆症等に苦慮しているので、先生方の講演を希望 ・一般向けの啓発も期待 ・学術論文化を進めてほしい ・研究に関してはもう一工夫してほしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の患者の家族に対し、適切な対応 ・説明をしており、地域からも信頼が得られている ・期待通りの活動がなされており、地域からの信頼も厚い ・患者数の増加をはかるために次の戦略(高齢者整形外科疾患など)が考えられている ・地域に貢献しようとの熱意が感じられる ・引き続き幅広い活動を期待
地域整形外科 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果はもとより、当地域の整形外科医療体制の充実に大きく貢献している点においても、高く評価できる ・症例を積み重ね新たな手術法の導入に取り組むなど成果をあげている ・論文などまとめもされている ・診療の中から研究に結び付くテーマを一工夫してほしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・週5日の外来診療のほか、年間500件超の手術を行うなど、当地域の整形外科医療体制の充実に大きく貢献している点において、高く評価できる ・年間500件を超す手術に対応するなど、いわき地域の診療体制の向上に大きく貢献している ・手術件数の増加や新たな手技導入など引き続き活躍を期待します ・先進的で集学的な治療を行っている
疼痛医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待以上の研究成果を上げている ・他職種チームによる学際的研究であり成果をあげている ・先駆的な実績をあげている ・症例を積み重ねプログラムとして確立されることを期待 ・英語論文化も進めてほしい ・本講座のスタッフ以外の職種の人から研究発表が出るようになるとすばらしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「慢性疼痛センター」として実績をあげている ・適切に診療活動が展開されている ・症例数の増加を期待する ・痛みの多面的評価は斬新である ・今後も状況に応じて研究計画を見直しながら進めてほしい
スポーツ 医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのフィールドワークに参画し、啓発活動にも積極的に取り組んでいる ・データ分析とコメディカルの育成が明確でない ・積極的に学会発表を行っている ・是非英文論文を発表してほしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外来として医大外2病院で診療にあたった ・適切に診療活動はなされている ・外来のみならず検診を行っている ・広報も良い

消化器内視鏡 先端医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・機器開発から医師養成まで幅広い研究活動に取り組んでいる ・特許申請、英語論文の発表、医療機器の開発では県内企業との連携を期待 ・さらなる論文化を求めたい ・人材育成についても成果を期待する
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2病院で多数の内視鏡検査・治療を行っている ・適切に行われており、今後の活躍にも期待される ・内視鏡医の育成などにより県内医療における貢献を期待
外傷学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース構築、症例蓄積を踏まえ分析を行い、論文作成に至っている ・PET-CTと病理所見など適切であるが、今後症例を増やしていくことを期待する ・進捗状況の改善が望まれる ・さらなる論文化を求めたい ・今後のさらなる症例を解析し、publication に結び付けてほしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・手術件数、外来入院とも多くの診療実績をあげている ・適切に診療活動がなされており、症例数の増加を期待する ・新たな治療成績評価法、診断法の確立に向け成果を期待する
外傷再建学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずしも十分とは言えない環境でありながら、目的どおりに研究活動が展開されていると認められる ・状況に応じて臨機応変でありながら、確実に目的に向かって活動を続ける姿勢が評価できる ・症例が集まることでデータ解析が可能となり多くの学会発表を行っている ・今後も学生の教育等今まで通り進めてほしい ・英語論文の publish を期待しています
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講座設置当初より精力的に活動しており、確実に実績に結びついてきている ・計画に沿った診療活動が行われていることも評価できる ・症例の蓄積と情報発信により着実に実績をあげている ・診療体制は進んでいるので、症例数を増加させることに期待 ・見学者も多く、広報されている ・医師、コメディカルの育成においても成果があがることを期待
多発性硬化症 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国からの症例蓄積を行い、全国レベル、国際の研究活動を行っている ・卓越した研究実績である ・多くの論文業績をあげている今後の研究成果に期待 ・福島医大神経内科との共同作業を期待する ・学生や研修医の指導もお願いしたい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的なケアの体制が整えられてきている ・適切に行われていると認められる ・研究は世界をリードしている有効な治療につながる診療活動を期待 ・関係諸科との連携を深めたい
災害医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・診療支援を目的としており、被災地域の復興に大きく貢献 ・応援体制が適切に行われている ・期待以上の実績である ・多数の publication がありすばらしい ・今後も災害医療の向上に寄与する活動を期待 ・新専門医制度のもと、研修医の教育も計画してほしい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切になされており、引き続きの活躍に期待します ・これまで通りの情報提供を希望する ・引き続き地域医療の充実のため、尽力願いたい ・復興において貢献するよう成果を期待

肺高血圧 先進医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りの成果が上げられている ・肺高血圧への肺動脈キャパシタンスの有用性、治療標的分子の発見など着実な研究成果 ・順調な研究が推進されている ・毎年 10 の英語論文が発表されている
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動も着実に実施 ・診療実施医療機関が追加されていることは評価できる ・脳高血圧患者の予後改善に期待がもてる ・診療実績が伸びている今後も年度毎の報告を希望する ・県内における診療実態の把握とデータベース構築に向け、他医療機関との連携の促進及び当該研究等の啓発促進のため、より具体的な方策の立案・実施が望ましい
生活習慣病・ 慢性腎臓病 (CKD) 病態治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待以上の研究成果、啓蒙活動が実施されている ・CKD 重症化予防の取組 CKD 憎悪についての因子解明は少しずつ進んでいる ・福島市の CKD 予防連携システムの運用開始など社会的活動を広範囲に積極的に展開している ・論文数が増えていることは研究成果の反映 CKD 重症化因子解析が進んでいる ・レジストリー疫学臨床研究2件(投稿準備中)、新たな5課題の着手というものは H28 の実績として十分か疑問 ・寄附者の評価が分かれる点について改善の余地がある
生体機能 イメージング講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6 薬剤の臨床使用承認や基礎研究も着実に実施 ・論文数の増加 ・制約がある中での研究実績は評価される ・基礎研究が着実に進められている ・予定する研究施設が利用できない場合の「プラン B」のあり方が要検討 ・臨床への応用を期待する
医療 エレクトロニクス 研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・経ペプチドの影響の解析など一定の研究成果を上げている ・研究実績があがっている ・計画と実績の対比が明確ではない ・計画にある「非侵襲型生体センサーを利用した医療機器技術の研究」「ネットワーク技術を組み合わせた医療システム技術の研究」、「臨床研究、試験」の進捗に疑問がある
不整脈病態 制御医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の更なる当分野での研究が期待される ・不整脈治療における革新的医療や研究が計画以上であると考える ・心房アブレーション法の確立に向け高血圧影響や植え込み型デバイス分野での管理法予測因子解明など着実な研究成果を上げている ・論文数も多い ・心房細動の研究において優れた実績をあげている ・英語論文として publish されている
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りの診療が行われている ・デバイス植え込み(135 件)、カテーテルアブレーション(279 件)などの多くの診療実績を上げている ・今後の啓発活動も計画している ・優れた診療実績である ・充分診療が行われている是非研究成果をもとに新たな治療法へと結び付けてほしい
心臓病先進 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠呼吸障害の研究では着実な成果 ・成果の発表(論文・著書・学会)を積極的に行っている ・数多くの研究実績は特に優れている ・多数の英語論文が publish されている
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りの活動と思われる ・睡眠ポリグラフ、無呼吸検査など着実な実績 ・診療体制の強化(週3回)及び簡易無呼吸検査件数の増加 ・日本と世界の医療に貢献している

腸内環境病態 医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 腸内細菌検出率など初年度としては、相応の成果を上げていると判断 定期的な情報提供を含め、よりこまめな連絡を期待する 積極的な成果発表に努められたい 今後の展開に期待したい 成果の論文文化が必要である
	診療	B	<ul style="list-style-type: none"> それなりの成果を上げている 糖尿病患者のデータは優れている 今後はより診療実績を積み上げていただくとともに、こまめな情報提供を期待する 今後の成果に期待する
腫瘍生体 エレクトロニクス 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 臨床応用に向けた基盤となる研究成果に加え、医療機器申請など実用面でも成果が得られている 寄附目的に沿った研究活動が適切に行われ、研究期間に見合った研究実績を上げているものとする 研究成果が着実にでている 生体計測の医療機器申請などの実績
多能性幹細胞 研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 着実、重要な研究成果を上げている(iPS 細胞樹立、分科誘導など) 家族性腫瘍より iPS 細胞の樹立に成功している 多数の iPS を樹立した 論文執筆に取り組んでもらいたい
先端がん 免疫治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの研究成果をあげているものと認められる 着実な進捗(樹状細胞ワクチンの臨床試験、先進医療 B 申請) 論文数も着実 研究を進めるための体制づくりが行われた点 密な連携を希望する
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果をあげているものと認められる 先進医療 A での臨床適用、先進医療 B 申請など着実な進展 密な連携を希望する 外来、手術対応などが応用研究や臨床家の育成にどのようにつながっているか
先端核医学 医療講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りの成果がでている 初年度として着実な進捗 予定通りにモノクローナル抗体を作製し、研究は順調に展開している

3 評価に対する講座の対応

評価会議等で出された助言等を活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。各講座よりあげられた助言等に対する主な対応策は以下のとおりです。

- ・成果の論文文化を目指す。

＜周産期・小児＞

- ・講習会等を積極的に行い、地域全体のレベル向上に努める。

＜地域救急＞

- ・定期的な研究報告はしているが、それに対するフィードバックが不足している可能性があるため対応を検討する。

＜白河総合診療＞

- ・変形性膝関節症に関する研究を新しく立ち上げようと考えている。
＜東白川整形外科＞
- ・先進的な治療法をまとめる。
＜地域整形外科＞
- ・症例を重ねて、検討した内容をいろいろな職種の方に発表してもらい、最終的には英語の論文にまとめる。
＜疼痛医学＞
- ・論文化を徐々に進める。
＜スポーツ医学＞
- ・福島県では内視鏡医が不足しているので人材育成に努める。
＜消化器内視鏡＞
- ・現在論文を投稿し、さらに執筆している。
＜外傷学＞
- ・英語論文化を進める。
＜外傷再建＞
- ・研究、指導における連携を神経内科と相談して進める。
＜多発性硬化症＞
- ・研究成果等を成果報告会のほかホームページなどで広く情報発信を行う。
＜災害医療＞
- ・寄附者に研究内容、成果をより正確に理解いただけるよう、懇切に説明するなど対応する。
＜生活習慣病＞
- ・種々の視点から研究対象が広がっており、関連性が理解しやすい報告内容となるよう努める。
＜不整脈＞
- ・研究成果を発表・論文化していく。
＜腸内環境＞